

平成27年度 市町村議会議員研修（3日間コース）

『 自治体決算の基本と実践

—行政評価を活用した決算審査— 』

研修報告書



研修日時 2015（平成27）年 7月14日・15日・16日

研修場所 全国市町村国際文化研修所（JIAM）

主催 財団法人 全国市町村研修財団

全国市町村国際文化研修所

報告者 東野 敏弘

講義内容

7月14日（火）

16時～17時

開講式・オリエンテーション

田中学長挨拶

- ・JIAMの歩みと果たしている役割について
- ・議会における決算審査の重要性が、近年特に注目されている。
- ・決算審査のポイントや決算審査のあるべき姿をしっかりと学んでほしい。

事務局より

- ・日程説明・諸注意
- ・参加者（69名）と10班のグループ分けについて

17時半～

参加者の夕食を兼ねた交流会

69名の参加者と名刺交換を行う

7月15日（水）

9時25分～12時・13時～13時半

講義①

『 決算の意義と審査のポイント 』

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科

教授

稲沢 克祐

第1部 自治体決算の基礎

序—1. 変革の時代：ストックサイクル（ヒト、モノ、カネ）の変化

① ひと：人口減少、高齢社会

2050年までに日本の人口が1億人を下回る。高齢化率40%

- ② もの：道路や橋、施設も高齢化する
今後50年間で400兆円の負担
- ③ おかね：これからの地方財政の課題
 - ・ 国債残高・地方債残高、合わせて、1,000兆円を超える
 - ・ 人口減少による財政的インパクト
 - ・ 民生費によるクラウドディングアウト

序—2. 平成26年4・5月の動き

- ① 平成26年4月22日—公共施設等総合管理計画の策定の要請
- ② 平成26年4月30日—新地方公会計改革による「新基準」の提示
- ③ 平成26年5月8日—日本創生会議の『提言素トップ人口急減社会』

1. 自治体決算の基礎

- (1) 予算と決算—「決算の結果を見て、予算を審議する」
「決算から予算へ・連続性で考える」
- (2) 決算の流れ
 - ①会計管理者による決算調整、②監査委員による審査・意見
 - ③議会による審査・認定、④総務大臣に報告、⑤住民に公表
- (3) 決算書（法定）
 - ①歳入歳出決算書、②歳入歳出決算事項明細書、
 - ③実質収支に関する調書、④財産に関する調書
- (4) 議会による決算認定
 - ①法定決算書、②決算審査意見書（監査委員作成）、③主要施策の成果報告書

2. 法定書類についての用語基礎知識

- (1) 歳入歳出決算書・歳入歳出事項別明細書
- (2) 実質収支に関する調書
- (3) 財産に関する調書

3. 決算審査における着眼点

- ①財務数値の視点—決算規模の年度比較、決算収支の状況の年度比較、
予算執行状況の分析、財政構造の分析、

地方債及び債務負担行為の状況

- ②財産の状況—財産の実在性の確認、異動増減の内容、遊休施設の適切な対応、目的外使用がある場合の妥当性、不法占拠はないか

4. 決算統計の分析

- ① 地方財政の用語の復習
- ② 財政分析・指標解説
 - 視点1—財政収支：分析の基本
 - 形式収支、実質収支、実質収支比率、単年度収支、
実質単年度収支
 - 視点2—弾力性分析
 - 経常収支比率
 - 視点3—歳入分析・分権の基本
- ③ 財政力指数
- ④ 財政分析実践編—「決算概要」と「類似団体別指数表」を活用
- ⑤ 財政状況理解のための公表資料—決算カード、財政状況一覧表、
財政比較分析表、歳出比較分析表

13時半～14時30分

演習①

『 決算審査の実践 』

(演習内容)

埼玉県秩父市の平成23年度財政状況資料集の総括表、普通会計の状況、各会計・関係団体の財政状況及び健全化判断比率を読み込み、秩父市の財政課職員になったつもりで、①財政力指標の分析欄、②経常収支比率の分析欄、③人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄に書き込む。

さらに、経常収支比率の分析の①人件費・②扶助費・③公債費・④物件費・⑤補助費等の分析欄に書き込む。

隣の席の方と相談して、書き込む。

14時30分～16時

講義②

『 決算審査の新しいアプローチ I 』

(行政評価を活用した決算審査)

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科

教授

稲沢 克祐

1. 行政評価の目的
 - ① 定量的評価⇒業績測定⇒非財務数値の数値化
 - ② 定性的評価⇒ロジック分析⇒妥当性・有効性・効率性の評価

2. 政策体系と行政評価
主要な施策の成果報告書を活用する

3. 行政評価シートの理解—事務事業評価表の構成
Plan—事務事業の上位体系、事務事業の目的
Do —数値による実績測定
Check—事務事業の評価、今後の方向性
Action—具体的な改善提案

4. 秩父市の「基本事業評価シート」（主要な施策の成果報告書）による解説
基本事業名—障がい者生活福祉手当等給付事業

5. 名古屋市の事務事業評価表による解説
事業名—基本健康診査

16時～18時

演習②

行政評価を活用した決算審査（グループ討議）

（演習の内容）

69名の参加者を10班（1班6名～7名）に分け、資料（事務事業評価表）をもとに、グループで話し合い、まとめ、発表する準備を行う。班ごとに司会者・発表者・記録者の役割を決める。

資料（事務事業評価表）－（事業名）資源回収事業

演習1—モデル事業評価に当たり、有効と思われる指標の検討

演習2—基礎データと事業の問題点の関連整理

演習3—演習1・2の結果を参考に、事務事業の改善策を「改善事項・内容」「改善の効果」にわけて記載する

7月16日（木）

9時25分～12時半

演習③

「行政評価を活用した決算審査」（グループ討議）

（演習内容）

昨日の班で討議してきたことをまとめ、1班から10班まで順次発表する。その後、稲沢教授から発表に対する講評が行われる。

13時30分～15時

講義③

『 決算審査の新しいアプローチⅡ 』

（財務書類を活用した決算審査）

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科

教授

稲沢 克祐

1. 公会計制度改革の理解

公会計改革理解のための言葉：発生主義、アカウントビリティ

- ① 発生主義の導入
- ② アカウタバリティ

2. 財務書類4表の理解と分析の視点（貸借対照表の中心に）

- ① 有形固定資産
- ② 投資等
- ③ 流動資産
- ④ 流動負債
- ⑤ 純資産

3. 兵庫県芦屋市の平成25年度財務書類に基づく解説
（総務省方式改訂モデル）

15時～15時10分

閉講式・事務連絡

平成27年度市町村議会議員研修

『自治体決算の基本と実践』

—行政評価を活用した決算審査— 』

に参加した所感

東野 敏弘

『自治体決算の基本と実践—行政評価を活用した決算審査—』の研修は、昨年、受講することができず残念に思っていたのですが、間もなく始まる9月議会で審議される平成26年度決算審査がしっかりと行えるように勉強したいと考え参加しました。

研修の講師は、すべて関西学院大学の稲沢克祐教授の担当でした。稲沢教授は、群馬県職員として15年間財政課を中心に勤められ、イギリス留学も経験される中で、大学教育に携われるようになられたそうです。そのため、地方自治体の財政運営に直接かかわられたこともあり、自治体財政の実態に基づき実践的な提言をされる方として知られています。

講義①『決算の意義と審査のポイント』では、自治体財政の基礎の前提条件として、ストックサイクル（ヒト、モノ、カネ）が大きく変化していることを捉える必要があること。その上で、自治体決算の審議は、翌年度の予算に連動するものであるとの認識を強く持って臨む必要があると力説されました。

そして、決算審査を行う視点として、次の3つを上げられました。①財政指標をベースにした決算の分析、②行政評価をベースにした決算の分析、③財務書類をベースにした決算の分析。

まず、財政指標をベースにした決算の分析を行うためには、法定書類である①歳入歳出決算書・歳入歳出事項別明細書、②実質収支に関する調書、③財産に関する調書が必要です。稲沢教授は、埼玉県秩父市の決算資料に基づき、具体的に説明されました。特に、財政状況を理解するために公表されている資料（決算カードや財政状況資料集等）を活用し、3ヶ年の財政状況の変化や類似団体との比較を行うことの重要性についても述べられました。

行政評価をベースにした決算の分析では、行政が作成する主要施策における『事務事業評価表』をしっかりと読み取ることの重要性を力説されました。事

務事業評価の基礎データを読み取り、問題点と課題を明確にし、改善策を提案していくことが重要です。事務事業を評価する上では、妥当性・有効性・効率性の3つの視点が必要であることも述べられました。そもそもこの事業は必要か妥当かという視点、効率的か有効かという視点を持って臨む事が大切であることや、形骸化することにならぬよう、その自治体にあったかたちで運用する必要があると述べられました。西脇市においても決算審議の際、活用の可否は検討してみる必要があると思います。

さらに、稲沢教授は、議会が独自に評価シートを作ることができればよいとも話されました。そのためには、議員一人ひとりの政策理解力の向上と行政執行されたことに対する市民の声を聴くことが大切だとも話されました。

財務書類をベースにした決算の分析では、財務書類4表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）をしっかりと読み解く力量を身につけることの重要性を説明されました。公会計制度改革により、自治体決算は、平成30年度までに財務書類4表を備えなければならなくなりました。私達議員も、財務書類4表の勉強をしなければなりません。稲沢教授は、芦屋市の貸借対照表をモデルに詳しく解説されました。ただ、私には、まだまだ難しく理解できなかった部分が多くありました。

A close-up photograph of a financial statement, likely a balance sheet, showing columns for assets and liabilities. The document is printed on a grid and contains Japanese text and numbers. The title at the top is partially visible and reads "貸借対照表" (Balance Sheet).

研修では、講義を聞くだけでなく、演習も導入されていました。演習は、決算審査を実践的に行う意図で行われました。隣席の方と話し合って共同で作業する演習①とグループで討議をしまとめ発表する演習②が行われました。

演習①では、秩父市の「財政状況資料集」「決算カード」をもとに、財政力指数の分析、経常収支比率の分析、人件費・物件費等の分析等を行うというものでした。私は、沖縄県糸満市の太田議員と一緒に分析しました。

演習②では、受講生70名を10班に分けて行われました。私の所属した7班は、糸満市の太田市議、宮城県加美町の伊藤議員、茨城県結城市の佐藤議員、岐阜県美濃加茂市の金井議員、滋賀県湘南市の菅沼議員、山口県柳井市の中川議員と私の7人でした。

課題は、モデル市の「集団資源回収事業」の基本事業評価シート（主要な施策の成果報告書）をもとに、グループで問題点を明らかにし、改善策を提案するというものでした。演習1では、事業の評価にあたり有効と思われる指標の検討を行い、演習2では、基礎データと事業の問題点の関連整理を行い、演習3では、事務事業の改善案を改善事項・内容と改善の効果にわけて発表するという内容でした。

司会、発表者、記録を決め、早速討議を始めました。私は司会者として、討議を進めました。グループ全員が意欲的で、積極的に発言してくれました。ただ、時間が足らなかったため、翌日1時間早く集合して議論をしました。発表者の菅沼議員が、分かりやすく発表してくれました。

私が、JIAMでの研修を楽しみにしていることの一つは、全国から集まってこられる意欲的な議員の皆さんと交流ができることです。グループ演習は、参加者の交流とともに、大きな刺激を受け自分自身の議員としての資質の向上をさせてくれます。

今回の研修は、9月から始まる西脇市議会9月議会での予算決算特別委員会に、早速生かしたいと考えています。特に、決算は翌年度の予算に連動するものであるとの認識を強く持って臨む必要があることを肝に銘じたいと考えています。私にとって、意義のある研修でした。